

# JORVIK

VIKING · CENTRE

## ヨービックへようこそ

1970年代はヨークにとって大きな成長と変化の時期でした。ヨークの住民、商業、そして観光客の新しい要求に合うために、古い建築ストックが取り壊されました。1972年に発掘されつつある人工遺物を保護して研究するために、ヨーク考古学団体が民間チャリティーとして設立されました。2000年も前から記録されているヨークの歴史は、ローマ時代の軍隊の要塞から始まり、発見された遺跡や人工遺物の中に眠っています。歴史的な地層には、前史時代の人間の行動の形跡が隠されています。

ヨーク考古学団体が初めに発掘したものの一つは、ペイブメントにあるロイズ銀行の地下に、新しい金庫室が作られていた途中に発見された深くて細い塹壕です。この塹壕の発掘を通して、ヨークのこの辺りには湿った無酸素性の土のおかげで人工遺物が遙か昔から非常によく保存されてあることがわかりました。複雑な積み重なった層も現れました。それらは866年にヴァイキングの軍隊がヨークを乗っ取った時に始まった、2000年ものヨークのアングロサクソン時代からのもので、編み枝や材木によって作られた建物などが現れました。この時代に建てられた木材の建物はイングランドに一つも残っていなかったため、この発見は非常に重大なものでした。

ヨークカウンシルがコッパーゲートの近くのクレイブンお菓子工場の敷地を再開発し始めた時、ヨーク考古学団体はアングロスカンジナビアの人工遺物が見つかるだろうと思われたその敷地で6ヶ月間の発掘活動を始めました。人工遺物の優れた量とクオリティーのため、発掘現場は町の中心地を含む一平方キロメートルにまで拡大され、発掘活動は1976年から1981年の五年間にわたって行われました。考古学者たちは2メートルほどの木の建物、ヴァイキング時代のゴミ捨て場や便所、家庭での生活や工業活動、そしてヴァイキングの世界で行われた貿易活動の形跡を見つけました。もっと小さな単位では、植物の入った土壌サンプル、花粉、そして昆虫の遺体も見つかりました。発掘活動の中で集められた考古学データには、11,000個の層序学の図、12トンもの土壌サンプル、23,000個の陶器類、そして4.5トンもの動物の遺骨が含まれています。これらは研究者のために保存されており、ヴァイキング時代のイングランドに対する理解を深めてくれました。

500、000人以上がヨークの「ヴァイキング発掘」で考古学者が働いているのを特別な展望台から見物しました。現場に対するメディアと公共の興味や「考古学が守られてほしい」という願いが強かったため、コッパーゲート・ショッピングセンターの地下に観光客のための観光施設が設けられました。そのヨービック・ヴァイキングセンターでは、コッパーゲートの人工遺物を展示する他に、中世前期の町の風景や音を思う存分に経験できるよう、ヴァイキング時代の都市化したヨークが再現されました。「町を再

# JORVIK

VIKING · CENTRE

現する」という革新的な手段は、ヴァイキング時代の家や仕事場の再建設、ヴァイキング時代の衣装を着たマネキン、そしてその頃に話されていたと思われるノルド語のサウンドトラックを通して実践されました。確実にヴァイキング時代の暮らしを再現するために、藁葺き屋根の専門家、陶工、船の帆の製造人、剥製師、銀細工師、彫刻家、たる製造職人、革細工師などがデザインと建設のチームとともに働きました。ヨービックの優れた特徴の一つは、合成の匂いを使って金属加工、料理、そしてゴミ捨て場などの環境を再現したことです。匂いを使ってある環境を再現するテクニックは今では様々な場所で使われ、博物館での学びをより良くするテクニックだと認められています。

ヨービックは1984年に初めて開館し、一年目には900,000人ほどの訪問者を迎えました。30年以上もヨークの素晴らしい観光施設であり、一般の人々の考古学やヴァイキング時代に対する理解に大きな影響を及ぼしてきました。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

## ジム・スプリグズ

1972年のある暗い日、私はヨーク考古学団体の遺物管理者という謎めいた職につくためにヨークへ到着しました。発掘活動の経験は山ほどありましたが、人口遺物を保護するための研究室を整えて管理する経験は全くありませんでした。ヨークに到着した時は住むところも働くところもありませんでしたが、数週間後にはヨークシャー博物館の地下にあるこじんまりとした一部屋に博物館の技術者と一緒に住んでいました。はじめの方の研究室は様々な道具やガラス製品でいっぱいでした。後ほど、これらは1900年より前にヨークシャー博物館で始まったヨークシャー哲学ソサエティーのメンバーらの化学研究室から来たものだと知りました。

私が初めて働いた保護研究室はメアリーゲートにあるセント・メアリーロッジの地下のふた部屋で、暗くてじめじめした上によく洪水にあう場所でした。私とどんどん増えていくスタッフと生徒はそこで八年間過ごしました。様々な人から実験道具を借り、フィッシャーゲートの古い食肉処理場が壊される前にそこに置かれたウールワースの食べ物課から来たマホガニーのベンチをいただきました。

研究室に運ばれた多くの発掘物は腐食した鉄製品で、一目では何なのかわからないものばかりでした。研究が始まった頃から腐食した鉄製品を識別できるように各製品のエックス線プレートを作ることになりました。病院で使われるエックス線は発掘物のためには使えない素質でできているため、初めの2、3年は鉄製品の発掘物をロンドンのサヴィルロウにある古代遺跡研究室へ電車で運び、その工業道具を使ってエックス線をとりました。

コッパーゲートで起きた浸水のおかげで、ヴァイキング時代に建てられた建物の材木や編み枝は見事に保護されていました。発掘が始まって数日後にこれらが現れ、私たちはこの発見が考古学上での重大な発見だということに気がつきました。私は発見を大喜びすると同時に、これらの材木が安全な場所にしまわれ、永久に保護される責任は全て私の肩にあるという不安を感じました。

この頃のイギリスの考古学者がこんなに多くの浸水にあった遺跡物と関わった経験はありませんでしたが、まず遺跡物が壊れないように包んで水面下のタンクにしまう必要は誰にも明らかでした。プラスチックと繊維ガラスで覆われた木を使ってタンクを作り、

# JORVIK

VIKING · CENTRE

1メートル以上ものの材木はクリフトンの小さな飛行場にある戦争中に火災のために使われたコンクリートのタンクの中に保管しました。非常事態に使われたガソリンによって動くポンプが近くにあり、何ガロンもの水を使ってタンクを掃除するためや保護する材木を選ぶときに使われました。

1980年にメアリーゲートのガルマンハウ・レーンの古いヨーク・アート・カレッジの一部を賃借しました。ボロボロの2つの建物はヨーク考古学団体の長年の研究室と作業場となりました。この建物の隣には自分たちで設計した冷凍乾燥装置と大きな水道管に繋いだ暖房タンクのついた「濡れた木」のための研究室を建てました。これでやっとコッパーゲートの材木を水溶性の重合体とポリエチレングリコールを使って保護する18ヶ月ものプロセスを始めることができました。通常の実験室ではコッパーゲートとヨーク周辺の発掘現場から発掘された人工遺物の記録と掃除が行われました。

発掘作業をする中で一番興奮した時はいつだったのかとよく聞かれます。発掘を手伝い、保護したものの中で一番価値のあったものはコッパーゲートからのアングリアンヘルメットで、1981年に今のヨービックとなる現場が建設中だった頃に採掘器具によって発掘されました。

## ジュリアン・リチャーズ

発掘作業がヴァイキング時代の地層にたどり着いたころには、現場はとて深くなっていて、電気で走るバケツの機械を使って土が取り除かれていました。その機械は一度に4つもののバケツを持ち上げることのできる巻き上げ機で、夏の間に来るボランティアたちがいっぱいになったバケツを巻き上げ機のフックにかける仕事をしました。あいにく、ある時ボランティアのズボンのベルトがフックに引っかかってしまい、彼はサーカスの役者のように数メートル高く釣り上げられてしまいました。最後には安全に地上に戻って来ました。

ある朝、手作業を手伝っていたアスクハム・ブライアン刑務所の囚人たちの技術が役に立ちました。発掘現場の入り口は南京錠でロックされており、ある日現場の責任者であるリチャード・ホールが鍵を持って来るのを忘れてしまいました。みんなを待たせた上に、大切な作業時間を無駄にしてしまったのでイライラしたリチャードが鍵を取りに帰

# JORVIK

VIKING · CENTRE

ろうとした時、囚人の一人が「心配しないでといいよ」と言って入り口の方へ行きました。数分後、南京錠が外れて現場への入り口が開けられました。

リチャード・ホールは毎日の終わりに現場を歩き回って作業者に発掘の進捗について伺ったり日記を書いたりしました。ある日、ある文化の層にある道の近くに建てられた住居を発掘しているとリチャード・ホールがやって来て進み具合はどうかと聞きました。積み重なった様々な層について話していると、表面上に現れたピューターでできたヴァイキングの円盤のブローチをリチャードが踏んでいることに気がつきました。このブローチは今のヨービック博物館に展示されており、リチャードのブーツに踏まれた部分が今でも欠けています。

コッパーゲートは私が今まで働いた発掘現場の中で一番面白いものが見つかった現場です。道のそばに住居が建てられていた層には様々な人工遺物があり、毎日のようにコイン、革製品のかげら、ブローチ、木でできたものの切れ端などが発見されました。考古学者はこのような人工遺物を見つけてもあまり興奮するべきではありませんが、コッパーゲートの商売人や工芸家に残されたものを毎日見つけると喜ばずにはられませんでした。

芽生え始めた考古学者にとってコッパーゲートで働くのは素晴らしい見習い期間でした。道のそばに建っていた住居の最後の層序は信じられないものでした。シルト、粘土、そして灰でできた格地層は数センチしかありませんでしたが、あらゆる時代の職業や作業場について学べるものがたくさんあり、層序を細かく発掘する必要がありました。リチャード・ホールは各住居に一人の発掘者を責任者としました。私は1979年から1980年の冬に一つの住居を数ヶ月かけてじっくりと研究し、金属を鋳るために使われた金属の暖炉を研究しました。暖炉の中心をセクションに分け、地層をめくると絵を描きました。私の絵に基づいて、最後のセクションが最後に書かれたコッパーゲートレポートに添付されています。

私たち発掘者にとっていつまでも残る記憶の一つはヨービックが再現したヴァイキングの汚水ダムのくさった臭いです。汚水ダムのある地層にたどり着くと、今日溜まった汚水かと思うぐらいひどい臭いがしました。休憩時間にソーセージロールやケーキを買いにグレッグスへ行くと、決まって変な顔をされましたが、すぐに注文を承ってくれました。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

## ニール・ロジャーズ

1979年、Aレベルの試験を終えてダラム大学で考古学を学ぶことが決まった18歳の私はコッパーゲートへ到着しました。

そこは今まで見たことのない世界でした！金属の柱に支えられた、広くて深い発掘現場とそこで行われていた様々な作業に驚かされました。

特に覚えているのは現場の下の方の平らな場所です。つるはしを使いながらロビンソン・クルーソーからの歌を歌っていた作業者们です！

私の仕事は土山に運ばれる土をバケツを使って手押し車に入れる機械を運転することでした。重量挙げ選手のような体つきでなかったため、とても大変な仕事でした！

ある日、「垂直な面から革の靴が突き出ている」と責任者の一人に教えました。すると「現場の垂直な面はもっとも重要な場所なので靴を抜くな」と言われました！

ある暑い七月の日、小枝の敷かれた場所で発掘をしていると浸水のせいで腐敗した有機材料、つまり糞便の臭いがまだ残っていることに気がつきました！

特に楽しかったのはいろいろな国から来たフレンドリーな人々と働けたことです！スウェーデン、デンマーク、そしてアメリカからのいろいろな年齢の人と友達になりました。コッパーゲートで出会った人たちは長年の友達になり、後ほどに結婚した妻ともそこで出会いました！コッパーゲートは考古学上の素晴らしい発見があるところだけではありませんでした！！！！

## ニッキー・ロジャーズ

コッパーゲートでの経験は短いものでしたが、私の覚えではコッパーゲートはあらゆる方面において他の発掘現場より優れていました。とっても良い給料、宿泊施設、そして器具がありました。もっとも便利だったのは現場の深い場所から土を取り除くための機械があったことです。

初めは発掘現場の下の方で働いていましたが数週間後には最前線である昔の住居の中を発掘していました。周りには木でできた構造物があり、床には長い間かけて発掘したた

# JORVIK

VIKING · CENTRE

くさんの小枝がありました。時々リチャード・ホールが作業を観察しに来ると「木がいつも濡れているように！」と言いました。住居がある場所は観光客がマグナス・マグナソンによる発掘についての録音を聞ける通路のそばにあり、私たちはその録音を暗記してしまいました！

私が現場にいた頃は金属材料の破片などしか見つかりませんでした。発掘されたものは記録するために現場の人工遺物小屋に運ばれました。運ばれたものの中には私がヨーク考古学団体の人工遺物研究者になってから使った物もありました。

コッパーゲートで過ごした6週間は素晴らしいときでした。発掘の他に、リチャード・ホールから講義を受けたりリップルヘッドにあるヴァイキングのロングハウスを見に行ったりしました。発掘作業は社交的な活動で、たくさんの友達ができた上に将来の夫にも出会いました！9年後の1988年にヨーク考古学団体の人工遺物研究者となるためにヨークへ戻り、それ以来ヨークで考古学者として働いています。

## ピーター・アディマン

ヨーク考古学団体が初めの方に行った発掘の一つはコッパーゲートの近くのパイブメントという場所で、ロイズ銀行の下でした。ここで発掘された物によると、このヨークの中心地が建てられたのはヴァイキング時代でした。ここで見つかった発掘物は奇跡的に保存しており、1100年前からの木でできた建物、織物、革細工、自然的遺物、人間の糞石、虫の遺体などがまだ見分けられるほど良い状態で保存されていました。

ロイズ銀行パイブメントの発掘現場での発掘を通して、この辺りを発掘すればヴァイキングの街、ヴァイキング時代の建物と暮らし方、そしてヴァイキングたちがヨークの都市化にどのような影響を及ぼしたのかなどの情報をイギリスで初めて手に入れられることに気がつきました。

1970年の半ばにコッパーゲートの古くなったクレイブンお菓子工場が取り壊され、試行発掘が始まってすぐに工場の地下があった場所にヴァイキング時代からの遺跡が発見されました。みんなの驚きに、完全に保存され、細かい彫刻まで見える2メートルほどの建物が現れました。建物の周りには発掘現場で普段見つかる陶器類、動物の骨、そして小さな金属類の他に今まで見つかったことのない材木、織物、革、シルク、完全に保

# JORVIK

VIKING · CENTRE

存された金属類、サビのない鉄類、そしてサビのなくてピカピカな銅でできた人口遺物まで見つかりました。

コッパーゲートでの発掘活動が昔のイギリスやローマ時代以後の街の生まれ変わりについて知る素晴らしい機会だということは初めから明らかでした。ここで初めて1000年前のアングロサクソンとヴァイキングの人々がどのようにヨークの街を建て上げ、どのような生活を送り、どうやってお金をもうけ、家や店を建て、今でもヨークで繁栄している商売の伝統が設立されたのかをこの人々の土地で知れることができました。

これらの素晴らしい発見は偉大な人々を感動させ、彼らはコッパーゲートでの大規模な発掘活動のための募金活動を支援してくださいました。その頃のテレビで大人気のテレビタレントでBBCのマスターマインドのプレゼンターであるマグナス・マグナソンが募金活動の先頭に立ってくださいました。ウェールズ皇太子を始め、デンマークの女王マルグレーテ2世、スウェーデンのカール16世グスタフ、ノルウェーの当時のハーラル皇太子、そしてアイスランドの大統領が後援者となり、ヴァイキングたちがヨーロッパの都市生活にどのように貢献したのかを知りたいという意思を示してくださいました。

コッパーゲートからフォス川に向かって走る5つの細長い区域はほとんど、または完全に発掘されました。店などが立つ現代の道にそって昔の店や作業場が見つかりました。その後ろには庭、小さな建物、排水路、ゴミ捨て場、そして糞尿がほぼ完全な状態で保存された野外トイレが見つかりました。

発掘活動のためには大人数の発掘者が必要でした。5年半の発掘作業には当時は生徒だった今では有名な考古学者たちが参加しました。初めの頃からあらゆる発見が周囲の目を引き、発掘現場は一般の人々が作業を見に来れる場所となりました。現場の周りには通路が敷かれ、録音された説明を聞きながらいろんな遺跡が発見されるのを自分の目で見れる場所となりました。100万人以上が現場を訪れ、入場料のおかげでさらなる発掘が行えました。

一番記憶に残っている発掘物？39000個の中から選ぶのは難しいけれど...完全に保存された蜂の入ったつぶれた蜂の巣がよく記憶に残っています。コインの製造に関するもの、そしてコインを作るために使われた数少ないサイコロや他のサイコロに打たれた



# JORVIK

VIKING · CENTRE

鉛の物体が見つかったおかげでヴァイキング時代の商売についてさらに知ることができました。

もっとも印象に残っている日？それは本格的な発掘作業が終わって現場が開発されている時に、今まで見つかったアングロサクソンのヘルメットの中で一番良い状態で保存されていた、かの有名なコッパーゲートヘルメットが見つかった日です。

## ラッセル・マーウッド

1981年、20歳の私は仕事を探していました。建設の資格を取ってヨークのカレッジから卒業したところでしたが、製図者になるための仕事を見つけるのは難しかったです。

保険社会福祉省が提供する求職インタビューを受けなかったら失業手当がもらえなくなると聞いて、1981年の4月にアルドワークにあるヨーク考古学団体のオフィスでインタビューを受けました。

私は考古学という言葉がスペルできず、考古学者はカウボーイハットをかぶったヒゲのある男の人だと思っていました。確かにインタビューを受けた時には半ズボンとサンダルを履き、しまりのない日よけ帽をかぶったヒゲのある男の人がいました。まさかこの人が世界で4つ目の、そしてイギリスでもっとも完全に保存されたサクソンヘルメットを発掘する職業を私に与える人だとは夢にも思いませんでした。そのヒゲのはえた人はコッパーゲートでの発掘活動の責任者であるリチャード・ホール博士でした。

リチャード・ホールとの良い思い出は沢山あります。インタビューの中で歴史、競馬とクリケットが好きだと言ったらヨーク考古学団体のためにクリケットをしてくれるかと聞かれ、冗談で「仕事をくれたらチームに入るよ」と答えたら「じゃあ木曜日の夜のヨーク大学での試合に送ってあげるから、月曜日から仕事を始めてね」と言われました。

当時のヨーク考古学団体はヨーク軍隊博物館が立っているタワーストリートのあたりを発掘しており、インタビューに来た人の半分をリチャードがタワーストリートの現場に送り、もう半分はコッパーゲートへ送られました。私はコッパーゲートへ送られ、そこで35年にも及ぶヨーク考古学団体との活動が始まりました。私がコッパーゲートへ送

# JORVIK

VIKING · CENTRE

られたのはリチャードが私を自分のクリケットチームに入れたかったからかもしれません！

作業者の中でも大きめの体つきだったので、始めの仕事はバケツを空っぽにすることでした。土でいっぱいになった重いバケツを現場の隣の通路へ運び、巻き上げ機に乗せ、ダンプカーへ乗せられた土は土山へ捨てられました。土は山ほどありました。

夏が近づくと私たちは月曜日から日曜日まで毎日8時から4時半まで働きました。これは夏の間に働きに来る大勢の生徒が来る前に仕事を終わらせるためです。

よく覚えている出来事の一つは現場で見つけた骸骨の骨から土を取り除いた後、骨を乾かそうとして吹雪の時に書類事務をするために使う小屋の地下に骨を並べたことです。雪と豪雨でない限り発掘作業はいつも行われました。

リチャード・ホールは雨が降るといつも「雨がびちゃびちゃ降っている。陶器を洗いに行く時間だ！」と言いました。彼はそう言うような決まったセリフをたくさん言いました。向かい側の教会の鐘が8時になると、最後の3つの鐘に合わせて「瞑想だ、散策だ、発掘だ」といつも言いました。

ある日若いお巡りさんがやって来て、これからは現場の出口の近くに牛乳のビンを置かないようにと注意されました。リチャードはどのお客さんにも会いたがるので若いお巡りさんは小屋の地下へ連れてこられました。彼はその時に片方の手を頭に置き、もう片方の手を腰に置いた骸骨がきちんと並べられているのを見ました。気絶したお巡りさんは気付け薬のおかげで目をさました！殺人の犠牲者を見つけたのだと思ったらしいです。

お昼になると近所のパブへ行き、今は亡くなったオーナーのジェフが彼とシャンディーを飲むという条件付きで奥のバーでサンドウィッチを食べさせてくれました。私たちが来るとベンチの下にあるいつものカーペットを取り除いて、汚れた靴で踏んでもいいように汚いカーペットを出してくれました。私たちが仕事へ戻ると彼は綺麗なカーペットをまたベンチの下に敷きました。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

私たちはいつもジェフのジュークボックスで音楽を聴き、決まってみんなで聴く曲までありました。それはビル・フューリーの「イン・ソーズ・オブ・ユー」です。この曲を聴くと、今でもコッパーゲートでの楽しい時間を思い出して微笑んでしまいます。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

P1 -

## ヨービック：ヴァイキングの町

「ヨークの町はノーサンブリアの人々の首都である... その町は思いもよらないほどぎっしり詰まった場所で、様々な場所からの商人（特にオランダ人）の財宝でいっぱいである。」

聖オズワルドの人生、ラムジーのバートファース、西暦971-972年

P1a -

10世紀の頃には、ヨービックは製造と貿易の栄えた中心地となっていました。

ローマ人によって築かれたヨークはハンバー河口から37マイル（60km）しか離れておらず、ウーズ川によって北海とつながっています。

コッパーゲートで見つかった人工遺物によると、ヨークの大きさ、文化と外見はヴァイキング時代にガラッと変わり、ヨークは重要な経済の中心地となったようです。

1066年には15,000人以上がヨークに住んでおり、ヨークはイングランドで2番目に大きな町でした。

P2 -

## 服装とジュエリー

ヴァイキングたちは服装、ジュエリー、武器や馬の装具を通して自分たちの地位を示しました。

中央アジアや東地中海のシルクなど、高価な織物はぜいたく品として扱われ、代金や贈り物のために使われていたかもしれません。しかし、ヨービックの身分の低い人たちは服装を一から作っていました。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

バックル、ブローチ、ベルトの取付金具などのアクセサリは銅プレートで作られ、そこに住んでいた人々によって使われました。いくつかのアクセサリはアイルランドやスカンジナビアのスタイルと装飾を真似て作られています。

一般の人はいつも徒歩で出かけたので、拍車などの馬の装具は高い身分と権威を示しました。

## P3 -

### 靴とアクセサリ

ヨービクの革細工師は靴、ブーツ、ベルト、革帯、そして剣とナイフのさやなどたくさんものを作りました。

およそ300個もののガラス、枝角、そして琥珀で作られたビーズがここで見つかりました。ガラスのビーズのほとんどは青、緑、黄色のどれか一色です。何色かが混じったものもあります。ネックレスは様々な大きさ、形と素材のビーズでできています。

鍵はナイフの刃を研ぐための研ぎ石と共にベルト、または二つの楕円形のブローチにかけられました。鍵は地位を示すために、女の人たちがよく持ち歩いていました。

ヴァイキング時代の裕福な男の人と女の方は指輪をよくはめていました。銀や金でできた指輪は溶かしたり、高価であれば遺産として残すことができました。

## P4 -

### 健康と衛生

「彼らは自分たちの国の習慣に応じて、毎日髪をとかし、土曜日に入浴し、よく服装を変え、着飾ることで自分たちに注意を引こうとしました。」

# JORVIK

VIKING · CENTRE

ウォリングフォードのジョン。13世紀にグレートブリテン島のヴァイキングの行いについて書いた。

コッパージェートでは骨や枝角でできた櫛がたくさん見つかりました。それらは様々の部分からできていて、長時間かけて作られました。特別に作られた枝角のケースが見つかったことから、これらが貴重品であったことがわかります。

現代の毛抜きはローマ時代の毛抜きと大して変わりません。ヴァイキング時代の毛抜きは、耳かきや爪洗いブラシと一緒にベルトやブローチにかけて持ち歩かれました。

P5 -

## 環境への影響

花粉、穀物粒、糞石（人間の排泄物）、卵の殻、魚や動物の骨などを研究することによってヨービクのヴァイキングたちの環境との関わりが知れます。

コッパージェートからそれほど遠くないところで見つかった糞石には、たくさんの鞭虫や回虫などの腸内寄生虫が見つかりました。これらの回虫は人間の腸の中によく見つかります。

魚の骨を研究すると、人間の生活が川の魚資源にどのような影響を及ぼしたのかがわかります。初めの方のヨービクの人々は主に川から釣れる魚を食べ、たまには北海からのニシンをも食べていました。サンプルによると、地元の川が汚染されるにつれてニシンがもっと食べられるようになりました。

コッパージェートの土の中で見つかった卵の殻によるとヴァイキングたちはガチョウとアヒルの卵を食べました。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

P6 –

## ヨービックの人々

10世紀のヨービックはヴァイキングの世界中からの観光、貿易、そして生活をするために来る人々で忙しい場所でした。そこは国際的な社会でした。人々はあらゆる見た目、言語、宗教と所持品を持っていました。

ヨークで埋葬されたのが見つかった40から50代の、年をとった男の人の顔はアフリカ人、または混血の顔をしていました。

ヴァイキングの世界には奴隷制度が存在していました。ウルスターの年史によると紀元前821年にダブリン湾のハウスが攻撃され、多くの女が盗品としてつれて行かれました。フィンダンの人生によるとグレートブリテン島ではヴァイキングの住民に奴隷が売られていました。

ヨービックではあらゆる言語が話され、古期英語、古ノルド語、そしてフリジア語やケルト語である古アイルランド語が話され、古ウェールズ語まで話されていたかもしれません。聖職者はラテン語も話しました。イスラム諸国の商人たちのエキゾチックな言語も話されていたかもしれません。

P6a –

## コッパーゲートの女性

コッパーゲートで発掘されたヴァイキング時代からの骸骨は2つしかありません。そのうちの一つ、女性の骸骨は、フォス川の近くの浅いピットで見つかりました。亡くなった時、彼女は45歳を超えていました。歯の同位体解析によれば、彼女はスコットランド、ノルウェー、またはスウェーデンで生まれました。

身長が1.59メートルの彼女は頑丈な体つきで、その時代には珍しくなかった変性関節疾患を抱えていました。これらの特徴を組み合わせると、片足を引きずって歩き、右の腰の問題のために松葉杖を必要とした小さめの中年の女の人が描けます。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

現代ではCT スキャンからの写真と頭蓋骨の分析を通して彼女の顔を再現することができます。

## P7 –

### 貿易と旅行

貿易と略奪を通して財産を手に入れることはヴァイキング時代の最も重要な特徴の一つです。

船が航海に使われるようになるにつれて、ヴァイキングたちの貿易相手はどんどんと増え、何人もの仲買人を使って世界の反対側まで商品が運ばれました。

ヨークで見つかったシルクやコヤスガイからは、中央アジア、東地中海、そして紅海にまで貿易相手がいたことがわかります。アラブ学者であったイブン-ファドゥランは10世紀のヴァイキングたちの貿易相手の一つはイスラム界の中心地であったバグダッドだったと記録しています。

スカンジナビアと北大西洋では鯨のひげ、セイウチの牙、そして石鹼石が輸出されました。ラインラントからは溶岩の碾き臼、そしてバルト地方からはバルト地方独特の琥珀が輸出されました。

アイルランドは奴隷だけではなく、リングの頭付きピンも輸出していたかもしれません。北ヨークシャーの海岸にあるウィットビーからは黒玉が輸出されました。

## P7a –

### 家

西暦900年のすぐ後にコッパーゲートは長細い敷地に分割されました。一階建ての柱とあみ枝でできた、裏庭付きの建物が道の真横に建てられました。土間があり、屋根は茅葺きで作られていました。



# JORVIK

VIKING · CENTRE

樹木年輪年代測定によるとこれらの建物は西暦955年と960年の間に急に使われなくなりました。これはヨービックの最後のヴァイキングの王であったエリック・ブラッドアックスが追放された時と重なります。

西暦960年をすぎるとコッパーゲートでの建築活動は急に盛んになりました。新しいスタイルの板材でできた、一階建てから二階建ての建物が建てられました。この建物は地面の傾斜に合わせて凹んだ形をしていました。

新しい家には板材の床があるのもありましたが、囲炉裏のある家は一つもありませんでした。屋根はまだ藁葺きで作られていましたが、芝とヘザーを使った屋根も最低一つはありました。木でできた排水管のおかげで土間は濡れませんでした。

P8 -

## 料理と食事

環境的な形跡を見ると、ヨービックのヴァイキングたちは植物が動物に踏み荒らされるために裏庭では植物を育てず、代わって裏庭をゴミ捨て場や便所として使ったことがわかります。

コッパーゲートの土の分析を見ると小麦、大麦、ライ麦とオート麦からの植物オパール（ある植物組織に見られるシリカ構造）が見つかりました。これらの農産物は町の外で育てられましたが家の中で小麦にひかれました。

牛と羊は田舎で育てられてから畜殺されるためにヨービックへ連れてこられました。ヨービックの人々はどんどん牛を食べるようになり、牛は裏庭で飼われていたであろうと思われています。鶏とハイイロガンは肉と卵のために飼われていました。

陶器類の表面に吸収された脂肪、ロウ、そして油を研究すると、ヨービックの人たちが何を料理していたのかがわかります。ある鍋を研究したら肉と野菜のシチューの残りが見つかりました。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

P9 –

## 織物

コッパーゲートの家では糸紡ぎ、布を織ること、そして布を染めることが行われました。これらは家で行われる産業でしたが、余分に作られた織物は海外の市場へ送られたかもしれません。

家の中に羊から取れたシラミが見つかったため、家の中では羊毛の掃除がされたのだと思われています。初めの方の織り機は焼成粘土の織り機のおもりを使い、後ほどの織り機は絵画機からのテクノロジーを使って作られました。

織物を赤、黄、青、緑などの色に染めるためにあかね、ユーラシア、そしてホソバタイセイから取れる染料が使われました。下着のためには亜麻（植物繊維）でできた白いリネンが使われ、リネンを平らにするガラスの道具で仕上げがされました。

コッパーゲートで見つかった少ない量のシルクは、きっと中東や中央アジアからロシアの川を通過してヨービックに運ばれたものです。シルクは頭飾りなどの高い地位を示すための服装のために、ヨービックで切られて縫われました。

P9a –

Við eld skal öi drekka  
en á ísi skríða  
magran mar kaupá  
en mæki saurgan  
heima hest feita  
en hund á búi

# JORVIK

VIKING · CENTRE

火のそばでエールを飲み、  
氷の上でスケートをし、  
痩せた馬と、  
汚れた剣を買い、  
家で馬を肥やし、  
犬を貸し出せよ。

- ハーヴァマールより

P10 -

## 娯楽と音楽

スカンジナビアとアイスランドは冒険談、音楽、そして詩に対する強い伝統があります。コッパーゲートからの人工遺物を見るとそこに住んでいたヴァイキングたちがどんな風に娯楽の時間を過ごしていたのかがわかります。

ヴァイキング時代からのそのような人工遺物の一つは、ツゲ材でできたパンパイプです。今でも A から E までの 5 つの音が出ます。

様々なサイズの馬の足の骨からできたスケート靴がコッパーゲートでたくさん見つかりました。川が凍った時にはスケートは娯楽と同時に、行き来するためにも使われたかもしれません。

ボードゲームはとても人気でした。ヴァイキングのゲームであるフネファタフル（または「王様のテーブル」）が遊ばれたかもしれない、オーク製のゲームボードが見つかりました。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

## P11 -

### 木工作業

コッパゲートの酸素が含まれていなくて冠水しなかった土のおかげで、普段なら1000年前に腐っていたはずの木でできたものがたくさん保存されていました。

料理の支度や食事のために使われたボウルやコップは、ポール旋盤を使って作られました。あるボウルはとても大切だったので壊れた時やヒビが入った時には修理されました。

塗料の装飾のあとが残っているコップが3つあります。コッパゲートという名前は「コップ作り人の道」という意味だと思われています。

木工作業のための道具がたくさん見つかりました。鉄のカミソリは、たるやバケツの木でできた部分を平らにするためにたる製造職人によって使われたかもしれません。

## P12 -

### 革細工

革細工の破片、靴、そして道具がコッパゲートで見つかりました。一つの建物では様々なさやを作った後が残っており、そこでは専門的な活動が行われたと思われています。

現場では牛が殺されていたため、牛の生皮を手に入れるのは意外と簡単でした。家畜や鳥の糞尿を使って行う皮なめしは行われていたかもしれませんが、もしそうなら町中に不快な匂いが広がっただろうと思われています。

革細工人はスリッパ、ブーツ、そして革のストラップやボタンで固定するスタイルなど、いろんなスタイルの靴を作りました。ヨービクの靴のほとんどはターン靴です。これらは縫われてから最後に裏返しにされました。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

P13 –

## 金属加工

ヴァイキング時代の鍛冶屋はまさに鍛冶作業の専門家でした。武器を作る者は一番地位が高く、その次は質の良くて鋭い道具を作る鍛冶屋でした。コッパージェートの鍛冶屋は金槌、トングとファイゴを使ってナイフ、針、釘、複雑な南京錠などあらゆるものを作りました。町の外では鉄合金の延べ棒を作るために鉄鉱石が溶解されました。延べ棒はヨービックでの貿易のために、おそらく船で運送されました。

一つのものを作るためには鉄鉱と一緒に違った鉄合金が使われました。というのは、鉄合金には硬さや砕けやすさなど違った素質のあることが理解されていたということです。これらの鉄合金は違った場所から来たかもしれませんし、一人の職人によって作られたかもしれません。

この時代の鉄の工芸品は炉床で熱されてから金槌を使って鑄造されました。鉛、ブリキと銅は溶解されてから型に流し込まれて鑄造されました。

P14 –

## 硬貨と商業

ヴァイキングの世界の経済は銀本位制でした。硬貨はそのまま、または小さく切って交換されました。インゴット、宝石、そしてハックシルバーと呼ばれたプレートも使われました。

銀は正確に測る必要がありました。コッパージェートではスカンジナビアからのセットで来たと思われる小さなおもりが2つ見つかりました。このようなおもりはヴァイキング社会の全ての場所で重さの標準として使われました。

10世紀のヨービックは北イングランドの硬貨製造の中心地でした。コッパージェートでは金属加工が行われた場所に、硬貨を作るための2つの珍しい鉄のサイコロが見つかり

# JORVIK

VIKING · CENTRE

ました。硬貨の印が押された鉛のものは、サイコロを試すためや町を出入りするときに使う買い物のレシートとして使われたかもしれません。

P15 -

## ヴァイキングの世界

勇敢に旅へ出かけ、  
金を探しに遠くまで行き、  
東の方では  
ワシに餌をやり、  
南のサラケンの国で  
亡くなった。

グリップスホルム・ルンストーン (約1050年)

ヴァイキング時代は素晴らしい発展と変化の時代でした。

ヴァイキングたちが数々の新しい土地を調査し、そこで長く続く関係を築きました。スカンジナビアから移住してロシアや北アメリカに定住しました。これらによってヴァイキングの言語や文化が広がり、人工遺物があちこちに残されました。

記念碑に書かれたヴァイキングの文字であったルーン文字から、ヴァイキングについての情報が得られます。さらなる情報は編年史や年代記に記録されています。12世紀以後には文化的、または政治的なメッセージを含んだ素晴らしい武勇伝説が記録されました。

現在の言語や地名にまでヴァイキングたちの影響が見られます。近代英語を見るとヴァイキング時代からの言葉がたくさんあります。シェトランドの多くの地名はそこに移住したヴァイキングたちの影響でスカンジナビア語から来ています。

# JORVIK

VIKING · CENTRE

考古学上の遺物を見れば今でもヴァイキングの人たちがどこへどのように旅をして定住したのかが知れます。彼らの家、船、道具、武器、家事道具、服、貿易を通して手に入れたものから大きなヴァイキングの世界が見えてきます。

P16 -

## 文化的な人種のはらばら

イングランドでは、ヴァイキングたちは違った言語、宗教と文化を持ったアングロサクソンの社会に直面しました。西暦866年から954年のほとんどの間は、ヴァイキングの王とアングロサクソンの大司教がヨービックで最も重要な人々でした。権力が最も高い所では2つの文化が共存していました。954年にエリック・ブラッドアックスが追放され、1066年まではイングランドの王が注意深く選んだ伯爵たちを通してヨービックを支配していました。

初めてヨービックに定住したヴァイキングたちはキリスト教徒ではありませんでしたが、割と早くキリスト教を受け入れたようです。10世紀のうちにヨービックの人々（スカンジナビア人とイングランド人）は二つの伝統が合体した新しいアングロスカンジナビア文化を作り上げました。

10世紀からの墓標であるミドルトン・クロスを見ると、キリスト教と異教の考えがどう混じっていたのかがわかります。この墓標にはキリスト教の十字架にヴァイキング時代の戦士と神話学上の蛇が彫られています。